

何度、訪れても楽しいタイの海。
大陸の西側にはアンダマン海、東側にはタイ湾が広がり、
個性の異なるダイビングを楽しむことができる。
今回は、西側・アンダマン海の定番のスミラン・スリン諸島クルーズではなく
大物遭遇率が抜群に高いと言われる
「ヒンデン・ヒンムアン」海域でのクルーズに乗船取材した。
豪華ダイビング専用クルーザー、〈スクーバエクスプローラー号〉に乗って、
日本発着4泊5日の日程で、これまであまり知られていなかった
美景+大物に出会えるヒンデン&ヒンムアンクルーズを紹介する！

ヒン ムアン デ ア ン & ク ル ー ズ

Hin Deang & Hin Muang cruise

Photo & Text: Yasuaki Kagii

Special thanks: Katia Diving Service

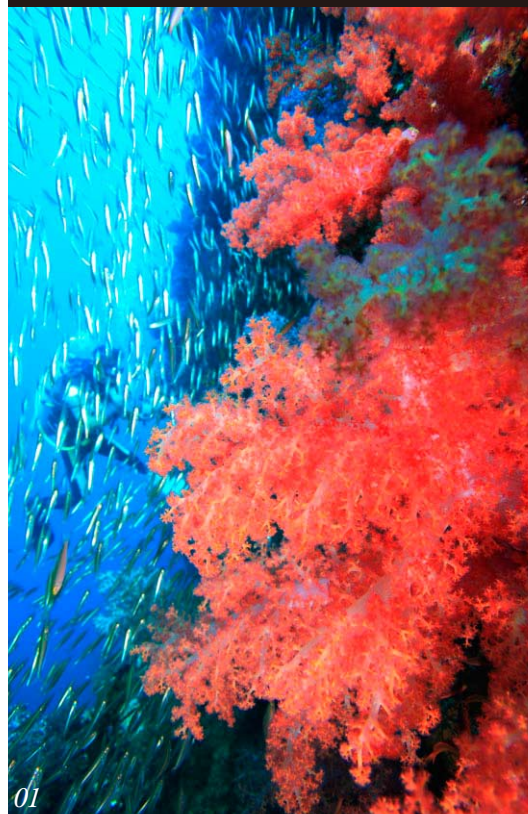
Design: tomato

陸上の景色と同様に、海中にもダイナミックな地形が連続する





Hin Deang & Hin Muang cruise



「ヒンデン・ヒンムアン」海域でのクルーズは、ブーケットにある日本人経営のカタダイビングサービスで催行されている。「ヒンデン・ヒンムアン」は、北部のリチュエロックに対して、〈南部アンダマンの雄〉として、実は以前からヨーロッパや現地ダイバー人気を誇っている。最近では「ヒンデン・ヒンムアン」の方がジンベイザメとの遭遇率が高いとされ、日本人ダイバーの間でも、注目度が高まっている。

そして、中4日間（短い日程だと、日本発～5泊6日）の日程が必要となる「スミラン&スリントクルーズ」と比べ、「ヒンデン&ヒンムアンクルーズ」は日本発着4泊5日で楽しむことが可能である。朝、日本を出発し、同日にブーケットに入国。夕方にクルーズに乗船して、次の日からはジンベイザメに会えるエリアでダイビングを開始。中2日間、1日4本（初日は5本目のナイトダイブも可能）を堪能し、翌日下船。そして日本（成田、関空）への到着は、早朝のために、その日からお仕事へ行くことが可能となる。少し慌しいスケジュールだが、この日程でジンベイザメとアンダマン海を堪能することができる。この短い日程で贅沢ダイビングが可能なのも、「ヒンデン&ヒンムアンクルーズ」の魅力のひとつでもある。



日本発着4泊5日のヒンデン&ヒンムアンクルーズで、
ジンベイザメに会える海へ！



- 01/ 鮮やかなソフトコーラルの群集の上に舞う小魚たち
- 02/ 赤いカイメンの上でポーズを決めるプレニー
- 03/ 大型ダイブクルーザーの後方デッキからエントリー！
- 04/ ニシキフウウオなどの人気種もたくさん見つかる

ヒンデン&ヒンムアンクルーズ
Hin Deang & Hin Muang cruise
Web-lue 2010 . Autumn



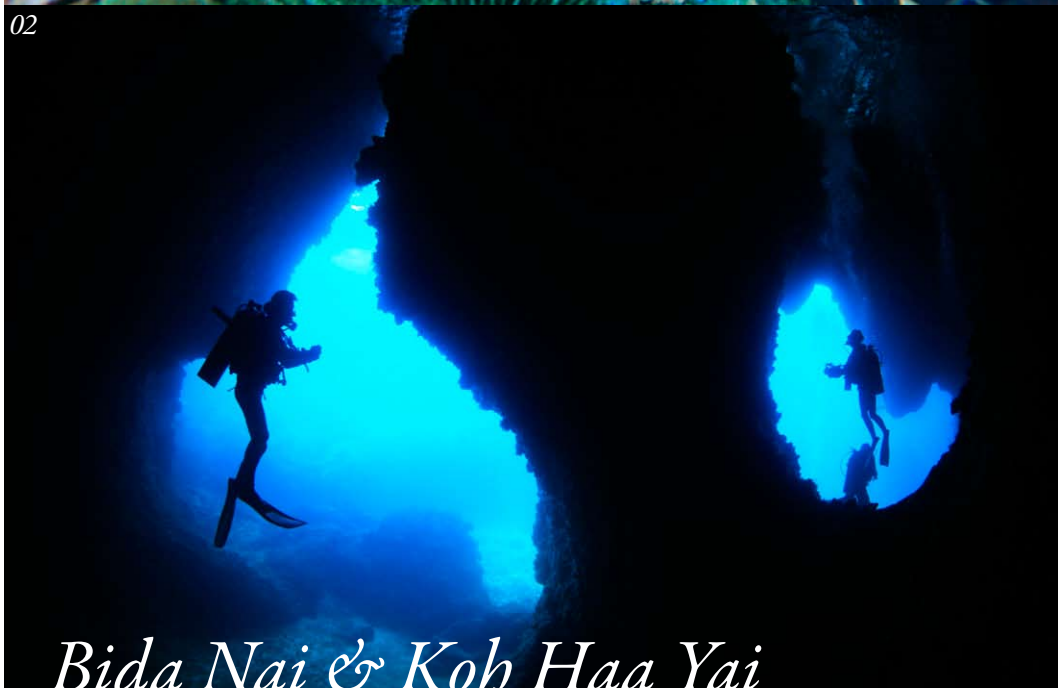
Information Link
<http://www.katadiving.net/>

関連情報HPへ



01

02



Bida Nai & Koh Haa Yai



03

01/ タイマイに振られながらも撮影、撮影！
02/ まるで宇宙空間のような青い世界にトリップ！
03/ 擬態上手なイバラダツ
04/ カラフルな景観にハナミノカサゴが舞う

インド洋が凝縮された海域

夜にブーケットを出航して、翌日の朝、ピビ島エリアに到着した。

ピビ島周辺は、デイトリップでも行くことが可能なエリアだが、通常のデイトリップボートで3時間ほど掛かる。海中は、ひとつのポイントにインド洋の固有種が凝縮されている感じで、生物の観察に向いている海域といわれている。コラーレパタフライフィッシュ、トマトアネモネフィッシュ、スカンクアネモネフィッシュ、パウダーブルーサージョンフィッシュなど人気の魚たちに、簡単に会えることができる。

1 本目に潜った Bida Nai (ビダナイ) は、切り立った岩状の地形が水底まで続く。東側はなだらかな砂地が広がり、大きな離れ根もある。離れ根周辺では、ホソフエダイ、キンセンフエダイが群れる。根のトップでは、ジャイアントフエジュラーやピックハンドルブラクーダ、ホシカイワリなど回遊魚が旋回している。西側には大きな岩が連なり、地形を利用したスィムスルーなどを楽しむことができる。大物では、トラフザメやブラックチップシャーク、タイマイなどが見られる魚影の濃いポイントだ。

2 本目のポイントは Koh Haa Yai (コハーヤイ)。見所は、ダイナミックな地形で海底景観はビダナイに似ている。島の南側がメインとなり、プチドロップオフから始まり、壁沿いを泳いでいく。ガイドブックでも紹介されている水中ケーブがあり、大きな横穴を潜ってはちょっとした冒険ダイブを楽しむことができる。一番大きな穴の上には、エアードームがあり、外から差込む光が、まるでライトアップされたジャグジーのように美しい。今回はタツノオトシゴの仲間を5匹ほどガイドさんに教えてもらった。地形ばかりに気がとらわれがちだが、マクロの生き物もなかなか見応えがあった。



04

ヒンデン&ヒンムアンクルーズ
Hin Deang & Hin Muang cruise
Web-lue 2010 . Autumn



Information Link
<http://www.katadiving.net/>

関連情報HPへ

真打 現る！ クルーズに乗船した初日、 幸運は、4本目に突然現れた！

舞台は、Hin Daeng (ヒンデン)。
4本目のダイビング、少し斜光になった太陽を背にエントリーした。

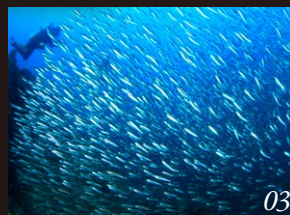
水深40mから立ち上がる大きな根の側面を潮の流れに逆らっていく。まずは魚たちが集まる根の先端まで行く。カイワリなどの回遊魚が小魚の群れを追い、イエローフィンバラクーダの群れが泳ぐ。夕方近く、海が活性する時間帯。グループは根の周囲をそれぞれ分かれて泳ぐ。ヒンデンにもよくジンベイザメが出てくるというという辺りに根待ちする場所がある。



01



02



03

今回は、根待ちの場所ではなく、反対側で出現した。私は残念ながら、出会うことができなかったが、4mのほどの小さなジンベイザメだったらいい。しかも、なぜかお腹が大きい個体だったようだ。写真は同乗していた古澤さんご夫妻にお借りした。

ほんのちょっとのすれ違いだった……。もちろん出会えなかったことは、残念だったけど、ゲストのほとんどが、目撃することができた。クルーズは初日にしてハッピーな雰囲気が満載となった(笑) さすが、ジンベイザメ・マジック！

古澤さんご夫妻のブログに、ジンベイザメの様子が書かれています。

>>><http://ameblo.jp/umigasuki-h-m/entry-10486770319.html>

01/可笑しな形をした島を目指して、ダイビング！

02/イエローフィンバラクーダの群れ

03/捕食魚に追われていたバイトフィッシュの群れ

04/コバンザメを従えたジンベエザメの雄姿!!!

05/お腹が大きい個体だった! 真相はいかに???



04

05



Hin Daeng

ヒンデン&ヒンムアンクルーズ
Hin Daeng & Hin Muang cruise
Web-lue 2010 . Autumn



Information Link
<http://www.katadiving.net/>

関連情報HPへ

地形と光を感じる

少し前後するが、3本目はKoh Haa Neua（コハースア）に潜った。まず水深を下げると、-28mくらいの海底一面に紫色のソフトコーラルが咲いていた。大小の岩が積み重なった地形やドロップになった地形をゆっくり巡り深度を上げると、今度は原色のソフトコーラルの森に続いた。島の南側では、岩の隙間をスイムスルーして楽しむことができる。まず、竪穴に辿り着き、スポットライトのような太陽光を撮影する。ガイドさんにモデルになってもらうと幻想的な雰囲気に包まれた。その後、小さなチムニーを抜けると、今度はミニブルーホールのようないくつも天井に穴が開いているドームが現れた。スミラン・スリン諸島にはない地形と光を堪能する。

01/海面から差し込む光に祝福される

02/ミニ・ブルーホールのような輝き



01

Koh Haa Neua & Koh Rok Nok

02
03

03/ナイトダイビングまで、がっつりと堪能する
04/ブダイの寝顔に大接近
05/夜になると現れるオオアカヒズメガニ



04



05

シンペイザメの興奮が覚めないまま、少し遅いナイトダイブが開催された。国立公園に指定されているKoh Rok Nok（コクロクノック）で、クルーズが停泊したエリア周辺でもサンゴが豊かに広がっている。アンカーロープの周辺をゆっくり潜るだけでも十分に楽しむことができた。美しいブダイやチョウチョウオの寝姿、昼間は見ることがないエビ、カニなどの甲殻類、そしてウミウシなど、ほの暗い海底で小さな生き物との出会いを楽しんだ。

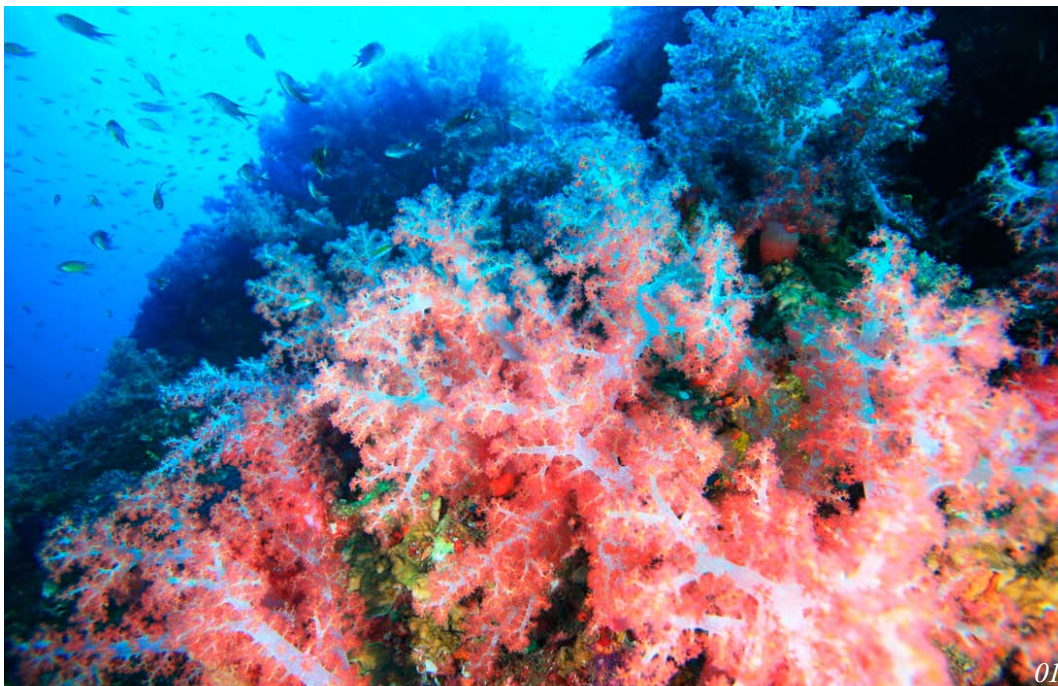
初日、寝る前まで 南アンダマンの海を味わおう！

ヒンデン&ヒンムアンクルーズ
Hin Deang & Hin Muang cruise
Web-lue 2010 . Autumn



Information Link
<http://www.katadiving.net/>

関連情報HPへ



Hin Deang & Hin Muang



01/ 豊かなソフトコーラルの花園が続く海底

02/ 海水越しに、イエローバックフュージャーの躍動が伝わる

最終目的となる「ヒンデン・ヒンムアン」で、2日目にダイビングを4本、楽しんだ。

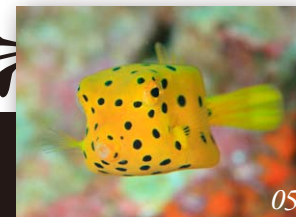
タイ語でヒンは「岩」、デンは、「赤」。ムアンは「紫」を意味する。だから、ヒンデンは赤い岩、ヒンムアンは紫の岩となる。その名前の由来は根を覆うソフトコーラルにある。どちらもカラフルな群生が続き、この海の豊かさを象徴している。

この両ポイントで多くのダイバーが求めるのは、ジンベイザメやマンタなどの大物。確かに今回乗船取材を行って来て、その可能性が十分にある海であるということを知ることができた。今後も注目の海であることは間違いない。

また、周囲に海溝がなく比較的浅い東インド洋のなかでも、ヒンデン・ヒンムアンは深い外洋に位置する隠れ根になる。そのために深い場所から上がってくる種類が時折現れるらしい。そして、太平洋側に近いため、時には太平洋種のチョウチョウウオやインド、太平洋のハイブリッドのセグロチョウチョウウオなどが見られることもあるという、不思議な生態系を持つ海でもある。



豊かさを内包するカラフルな海



05



04

同じアンダマン海でスミラン・スリン諸島の方がボビュラーなのは、透明度の平均値の違いかも知れない。ヒンデン・ヒンムアンは良いときと悪いときの差があり、透明度に関しては、リチェリユーロックの様子に似ているのかもしれない。今回の取材は、抜群の透明度ではなかったが、大物を期待できる少しプラントンブレンドの海中だった。具合は写真を参考にして欲しい(笑)

最後に「ヒンデン・ヒンムアン」へは、ランタ島からのデイトリップもあるが、スピードボートで3時間近くかかり、外洋に面しているために、天候によっては行けない日も多い。そのため、やはりクルーズでのアクセスがおすすめ。ヒンデン&ヒンマアンクルーズには是非、〈スカーエクスプローラー号〉で！

03/360度、海に囲まれた洋上生活を楽しむ

04/ 美しいアカオビナダイ

05/ この海でも人気のミナミハコブツの幼魚

ヒンデン&ヒンムアンクルーズ
Hin Deang & Hin Muang cruise
Web-lue 2010 . Autumn



Information Link
<http://www.katadiving.net/>

関連情報HPへ



01



02

Information

スクーバエクスプローラー号

タイで最大級のダイブクルーズ船。快適なクルーズライフを確約してくれる頼もしい存在。ダイビングスタイルは1日、4～5本（5本目ナイトダイブ）で潜水時間は、最大50分。

ヒンデン&ヒンムアンクルーズの日程の詳細は http://www.katadiving.net/diving/Schedule2010-2011_for_Japanese.pdf をご覧下さい。

※ヒンデン&ヒンムアンクルーズからシミラン&スリムクルーズに継続できます（逆パターンもあり）。プーケット発アンダマンサファリの設定もあり、年間11本です。



03

〈特徴〉

最大人数24名のゲストに対して、全長36.8m 幅7.8mのとてもゆとりのあるスペースを確保。プロジェクタースクリーンを使用している細かいフリーフィングがある。また、ゲストが撮影した映像上映なども可能。船上マッサージ（タイ、オイル、フット）を施術あり。料理はbuffet方式。ヨーロッパで経験を積んだシェフが、タイ料理はもちろん、様々な美味しい料理を提供してくれる。2階には、エアコンの効いたインドアのリビングスペースがあり、また後部のアウトドアのラウンジデッキは3mの増築を行い、より開放的となった。広いダイブデッキでは、器材セッティングなどが楽々。予約の段階で、プライベートダイブかグループダイブを選択できる。プライベートダイブは、ひとり若しくは家族など少人数をガイド1名で担当する。事前に要予約。デングキーが2隻あるために、余裕も持ってダイブプランの計画可能。そのために器材の脱着の苦手な方のお手伝いや、ゲストの様々な要望に応えることができる。今シーズンからナイトロックを導入予定。

カタダイビングサービス

プーケットの中でも日本人経営の老舗ダイビングセンター。今年で創立22周年を迎える。ヒンデン&ヒンムアンクルーズを年間スケジュールに組み込んでいる唯一の日本人経営ショップ。お店のモットーである「自分自身で学んでいく」を基本にし、ガイドは時間を見つけては、カタビーチで潜り、魚などの水中生物の調査、勉強を行う。そのような経験を積み重ね、アンダマン海のシーズンになるとプーケットで最大のダイブクルーザー〈スクーバエクスプローラー号〉を使ってゲストに最良のダイビングを提供する。



04

01/ 広いリビングで、快適な時間をダイバー仲間と共有する

02/ タイの海を巡るスクーバエクスプローラー号

03/ いつも笑顔で迎えてくれるスタッフ

04/ 頼もしいガイド陣が、完全サポートしてくれる

05/ 最終日は船上BBQパーティー！忘れられない思い出になる！



05

ヒンデン&ヒンムアンクルーズ
Hin Deang & Hin Muang cruise
Web-lue 2010 . Autumn



Information Link
<http://www.katadiving.net/>

関連情報HPへ